

次世代の健康社会実現のための公衆衛生人材育成



大阪府藤井寺保健所

所長 谷掛 千里

取り組みが行われました。

今年4月には熊本で、本学会開催直前には鳥取での地震、台風10号を含む大雨の被害など発生し、災害時の公衆衛生従事者の人材育成も重要課題となっており、関連するシンポジウムでは会場から人があふれる状態となっていました。DHEAT構想が現在、全国衛生部長会より国へ要望され、国立保健医療科学院において今年度より災害時健康危機管理支援チームの教育が開始されています。

私自身が座長として担当した第12分科会の感染症示説では、結核発表のみでしたが、結核遺伝子型別解析(VNTR)の活用に関する演題が多く発表されていました。それ以外にIGRA検査の精度としてのデータ解析結果、BCG個別接種に係るコッホ現象対応のマニュアル作成や感染症診査協議会統合後の考察、ストップ結核パートナーシップ活動報告と課題、服薬開始者への服薬終了者からのメッセージ集の作成など10演題でしたがバラエティに富んだ内容となっていました。

平成26年3月より日本公衆衛生学会公衆衛生モニタリング・レポート委員会が設置され、12分野11グループのモニタリングが開始されています。特別報告として①疫学・保健医療情報、保健行動・健康教育分野、②健康危機管理、保健所・衛生行政・地域保健分野、③障害児者の医療と福祉分野の3つの報告がありました。フロアよりTPP等社会情勢による公衆衛生への影響なども研究してほしいとの発言がありました。

大阪府保健所や大阪府庁の職員、府内の保健所設置市保健所職員等大阪の行政職員の発表や、産官学の連携含めての発表もあり、公衆衛生は様々な方々の活動で成り立っており、さらに、地域の生活全般含めての活動が必要であることを再認識する機会となりました。

最後に、無事盛大に開催でき、事務局の阪大含め大阪府、大阪市の皆様のご尽力に感謝申し上げます。🐼

第75回日本公衆衛生学会総会が平成28年10月26日から3日間、緒方洪庵の適塾がある大阪市で20年ぶりに大阪駅から直結のグランフロント大阪中心に、全国発の医学部の公衆衛生学教室を設置した大阪大学大学院医学系研究科公衆衛生学教室の磯博康教授を学会長として、「次世代の健康社会実現のための公衆衛生人材育成」をテーマに盛大に開催されました。特別講演・報告5題、教育講演10題、シンポジウム41題、ランチョンセミナー17題、市民公開講座等、演題総数1,817題、61自由集会と過去最大規模となり、全国から総会約4,300名、市民公開講座約500名と大変多く参加いただきました。

学会長講演で全世代の健康増進や疾病・健康障害の予防、医療・福祉の充実が求められている中、公衆衛生人材の育成と確保は大きな課題であり、「大学や学会がプラットフォームとなり、人材育成を指導していかなければならない」と述べられました。現在、本学会を含む11団体で社会医学系専門医協議会を立ち上げ、専門医制度の準備が進められており、シンポジウム等活発な討論がされました。大阪は特に保健所設置市が多く、現在、政令市含めて6市、平成30年度には2市、平成31年度には1市が中核市になることを表明しており、中核市の人材確保を含む育成のシンポジウムも開催されていました。

若手の公衆衛生人材育成のため、40歳以下の会員に対して、口演賞(10題)、ポスター賞(42題)を選出し、口演賞受賞者10名は初日の午後に最優秀口演賞1題、優秀口演賞3題を選出するという初めての